

道内4国公立大 研究成果を発表

小樽商科大など道内4国公立大の学生が研究活動の成果を披露する「北の四天学ビジネスプラン発表会2018」が15日、札幌市中央区の道庁赤れんが庁舎で開かれた。学生たちは地域の農業や観光を活性化するための企画を説明した。

発表会は2015年から毎年12月に開かれている。22年春に運営法人の統合を目指す小樽商大と北見工業大、帯広畜産大に加え、公立はこだて未来大の学生合わせて33人が参加した。帯広畜産大は、十勝の農業者を応援する学生団体「meyou(みーとゆ



十勝の農業を応援する取り組みを説明する帯広畜産大の学生たち

ー)の活動を説明。生産者のこだわりを発信するホームページの作成や、インターネット販売の実績を紹介した。

小樽商大の学生は、約40年前の小樽の街並みを撮影した約8千枚の写真を活用し、小樽運河など観光地以外の情報を発信するゲーム開発について発表。最優秀賞に輝いた。小樽商大の和田健夫学長は「3大学の運営法人統合後、発表会をさらに発展させたい」と語った。(石田礼)

手作りゲーム 児童ら満喫

樽商大生が「たるわランド」

小樽商大の学生サークル「小樽笑店」による子供向けの催し「たるわランド2018冬」が16日、小樽市産業会館で開かれ、親子連れが手作りのユニークなゲームを楽しんだ。

同サークルは毎年、同様の催しを夏と冬の年2回開催している。今回は「ようこそ！ クリスマズ」^{スズ}と銘打ち、動物とクリ

スマスに關係する五つのコーナーを用意した。会場には段ボールで作ったカバなどの動物の口におもちのジャガイモやニン

ジンなどを投げて入れる玉入れゲームや、カップケーキをクリームやチョコレールトで飾るコーナーを設置。サルや星をかたどった風船も無料で子供たちに配った。



小樽市立稲穂小6年の竹藪佑太君は「いろいろなコーナーがあつて楽しかった。玉入れは難しく、入ったらうれしかった」と話した。

(西出真一朗)

動物とクリスマスにまつわる手作りゲームを楽しむ子供たち